

## 1 2005年度 しがぎん野の花賞贈呈式 浄美社受賞!!

平成18年2月25日(土)「しがぎん野の花賞」の奨励金贈呈式が、滋賀県草津市のしがぎん草津ビルにおいて行われ、浄美社をはじめ京滋の10企業が表彰されました。式典において、滋賀銀行高田紘一頭取は「ニュービジネスへのロマンにかけた挑戦を、地域金融機関として積極的に支援したい」と激励。

贈呈式に出席した常務は「この度の受賞を励みに、「安全・安心」で快適な環境の提供により一層邁進し、業界の発展に向けて積極的に活動を続けていきたい。」と受賞の喜びと今後の抱負を述べました。

### ●野の花賞とは

「野に咲く花」を育て、大輪の花に・・・

地元での新しい産業・ニュービジネス(野の花)を育成し、地域経済の発展と活性化に貢献する。既存の枠組みに捉われず「産・学・官・金」各方面の英知を結集し、ニュービジネスをサポートするものです。

今回、京都府立医科大学との産学共同研究が、将来社会に役立つニュービジネスとして受賞しました。

### ●研究テーマ

「感染予防を考慮した病院環境整備の標準化」(ガイドライン化)の共同研究

### ●研究内容

病院内の環境から人の手を伝って発生する院内感染。清掃を含む環境整備は院内感染対策上、手洗いと同様に重要な予防対策の一つです。しかし、感染予防を考慮した環境整備の現状は、まだまだ不十分な点が多く、曖昧なものしかありません。そこで「安全・安心な環境を提供する」という浄美社基本理念のもと、病院全体の環境を良くするために、そして浄美社の環境整備が全国の標準・基本となるべく研究を続けています。



滋賀銀行高田紘一頭取より表彰を受ける



喜びを胸に一層の飛躍を誓う常務取締役：滋野裕子

## 2 都市空間の雪月花に癒される

# アーバンエコロジー ガーデンに触れて みませんか?

— 環境衛生を考える企業として

排気ガスや夜の明るさが、負荷としてさえぎることのできない都会のなかで、虫や鳥や蝶、そしてひとが豊かに暮らせる環境とはどのようなものなのか・・・  
環境問題が、毎日のように取り上げられる今よりさかのぼること15年も前に、緑地が少しずつ消えていく街から、自然に触れる場所を取り戻したいという思いで小さな庭づくりに始まり、そしてもう少し大きな庭園をと環境システム工学研究所に、簡素で質を重視する小動物のオアシスとなるべき緑地環境づくりがはじまりました。



— 感動に出会う

都会に住む虫や鳥は、羽を休めたり、水を摂る場所を探していますただそれだけでもここにあればと気負いもなく、自然に近い庭を作りました。ピオトープほど放置するわけでもなく、しかし農薬や化学薬品が存在しない庭、やすらぎを覚える安心な庭を継続的に維持していると、身近かにたくさんの感動に出会いました。

— 伝えたい、一緒に創りたい

虫にとってきれいな花は、どのように映るのでしょうか。  
ヒトではなく、虫や花が主人公として、彼らが喜ぶ自然を考えていきたいと思えます。そして都会にも鳥のさえずりやせせらぎの音が必要はらずです。  
子どもたちや地域の方々と一緒にふれあうことのできる楽しい庭を目指します。  
きっと、あらたな感動に魅せられることだとワクワクしています。

— 環境システム工学研究所

山から流れ出る清水が、小川となって池に注ぐ自然を、ミニチュア化しました。四季の花、実、種、訪れる虫や鳥、小川に放した魚たちが観察できます。



## 3 ボランティア活動報告

2006年より着用! JOBISHA ボランティア用ベスト



ユニフォームの(株)創建産業さまより、当社の活動にご賛同いただき、ご提供を賜りました。本当にありがとうございました。この温かいお気持ちを胸に、活動してまいります。

### 清掃美化運動

地元周辺地域の環境保全は、私たちにとっても快適な生活環境を守ることに繋がります。松尾橋近辺の桂川河川敷の清掃美化作業は、平成5年より毎年数回にわたり実施しています。清掃ボランティア活動を通して、社員の自己啓発とともに、社会の一員として貢献していきたい。

2006年2月13日(月)

ゴミの中で一番多かったのがタバコの吸殻。その本数たるや、少し歩けばまた落ちているという状態で、スタッフの中にも喫煙者が1人いたが、同じ喫煙者としてマナーの悪さに憤慨していた。



2006年4月17日(月)

毎回晴天に恵まれ、神様はちゃんとお見通しなのです。

良いことは進んですべしと・・・

